

改めて当事者の声を聴く
二次被害とそれを与えない対応について
-特に性暴力の問題を中心に-

支援者より与えられたネガティブな体験 ①

性暴力禁止法を作ろうMLからの情報提供

- ▶ **【警察】**
- ▶ ・事件として取り扱ってくれない
- ▶ ・事情聴取や現場検証における配慮があまりにもない
- ▶ 被害の状況を根堀葉堀聞かれ、正直
- ▶ 興味本位で質問されているとしか思えない
- ▶ **【弁護士】**
- ▶ ・弁護についてくれない
- ▶ 勝てない裁判だと思われており、弁護を断られる
- ▶ ・刑事事件で裁判を起こしたくても、民事訴訟や示談に持っていかうとする
- ▶ 戦おうとしてくれない
- ▶ **【行政】**
- ▶ ・性暴力被害に関する情報を持っていない、知識がない
- ▶ 自助グループを問い合わせても「知らない」と言われる

支援者より与えられたネガティブな体験 ②

性暴力禁止法を作ろうMLからの情報提供

▶ 【医療機関】

- ▶ 性暴力被害者だと対応を断られる
- ▶ その名目として「性暴力被害者は時間を守らない」（カウンセリング時間に遅れる、無断で来ない、もしくは予約外で突然来て時間を無視して話し続ける）と言われるが、実際は「回復までに時間がかかるので対応したくない」という意図が見える
- ▶ 性虐待サバイバー。自殺未遂で、火傷で病院にかつぎこまれ「痛いいたい」と泣くと「自分が招いたことでしょ」と看護婦に怒られた。どうしてそんなことをしたのか、やさしく理由や事情を聞かれることはついになかった。（行動ではなく、その背後にある気持ちに焦点をあてた対応が必要）
- ▶ 訴訟が関係する人は見ないといわれた

▶ 【女性シェルター】

- ▶ ・病気ではないのに心療内科受診を勧められた（当事者の意に添わない受診勧告は無意味）
- ▶ ・心が病んでいるのに集団生活で人と関わることは無理だと感じた（そう感じさせない対応が必要）。